

目次

その1	お釈迦さま……………	2
その2	お薬師さま……………	5
その3	阿弥陀さまⅠ……………	8
その4	阿弥陀さまⅡ……………	11
その5	如来さまと菩薩さま……………	15
その6	正(聖) 観音さまⅠ……………	18
その7	正(聖) 観音さまⅡ……………	22
その8	変化観音さまⅠ……………	26
その9	変化観音さまⅡ……………	30
その10	変化観音さまⅢ……………	33
その11	変化観音さまⅣ……………	37
その12	文殊・普賢両菩薩さまⅠ……………	40
その13	文殊・普賢両菩薩さまⅡ……………	43
その14	弥勒菩薩さま……………	47
その15	地藏菩薩さまⅠ……………	50
その16	地藏菩薩さまⅡ……………	53
その17	虚空蔵・勢至両菩薩さま……………	56
その18	日光・月光両菩薩さま……………	59
その19	不動明王さまⅠ……………	63
その20	不動明王さまⅡ……………	67
その21	五大明王さま……………	71
その22	愛染明王さま……………	76
その23	孔雀・烏枢沙摩両明王さま……………	80
その24	天部の仏さま……………	84
その25	梵天さま……………	90

その 26	帝釈天さま……………	94
その 27	四天王さまⅠ……………	98
その 28	四天王さまⅡ……………	102
その 29	毘沙門天さま……………	106
その 30	吉祥天さま……………	109
その 31	弁才天さま……………	113
その 32	大黒天さま……………	117
その 33	歓喜天さま……………	121
その 34	韋駄天さまと摩利支天さま……………	125
その 35	鬼子母神さま……………	129
その 36	荼吉尼天さま……………	133
その 37	金剛力士さま……………	137
その 38	大自在天さまと伎芸天さま……………	141
その 39	閻魔天さまと十王信仰Ⅰ……………	145
その 40	閻魔天さまと十王信仰Ⅱ……………	149
その 41	八部衆さま……………	153
その 42	十二神將さま……………	157
その 43	二十八部衆さま……………	161
その 44	深沙大將さまと十六善神さま……………	165
その 45	十二天さま……………	169
その 46	蔵王権現さま・諸尊……………	173
その 47	青面金剛さま……………	177
その 48	八幡大菩薩さま……………	181



図1 釈迦如来 比叡山延暦寺蔵(重文)

画像)が、サインを出しておられるのをごぞんじですか。

「そんなことしらないよ!」
なんて言わないでください。

仏さまはみんなそれぞれにサインを出して皆さんを迎えて下さっているのです。最近では、ともすると、仏さまを芸術品として見るような風潮さえありますが、仏さまの芸術的な価値は、本来第二、第三の問題なのです。仏さま

は、もともと私たちが、その前で手を合わせ、祈りを捧げる対象なのですから…。

そして、仏さまは、そうした私たちの祈りを

心をサインで

皆さん、いつも拜んでおられる仏さま(仏像や

「たしかに聞いてあげますよ」とサインで伝えて下さっているのです。

私たちがどんなに祈っても、肝心の仏さまが知らんぷりをしてもらったのでは困ってしまいますよね。

では、実際に、仏さまからどんなふうサイン(メッセージ)が出されているのでしょうか?

実は、仏さまは、お手の形や持ち物など、いろいろな方法で、私たちにサインを送っておられるのです。いいかえれば、仏さまのお心が、こうした形で表わされているといたらいいでしよう。

ですから、私たちがおまいりする時には、まずこの仏さまのサインをしっかり受けとめてから、心静かに祈るといのが、本当のおまいりの仕方というわけです。仏さまのお姿、すなわち形には、そのお心があるのだということを感じ覚えておいて、少し具体的に考えてみましょう。

お釈迦さまーこわがらなくてもいいんだよー

ごぞんじの通り、お釈迦さまは釈迦如来とも呼ばれます。そして、実はこの〇〇如来と名のつく仏さまは、すでに完全なお悟りを開かれた方なのです。ですから、如来さまは一切の物事に対するとらわれの心がありませんので、そのお姿も装飾品などは持たず、簡単な衣を一枚身につけておられるだけで、あとは、ご自分のお心を伝えるために必要なもの以外は一切何もお持ちにならないのです。そこで、お釈迦さまですが、普通は図1のように、左右の手の指をひろげられ、右手を胸の辺りにあげ、左手を腰の辺りにたらしらしていらっ

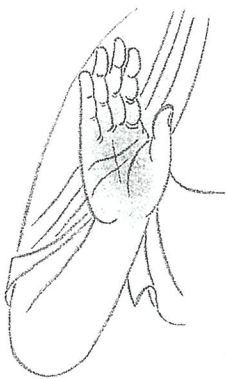


図2

しゃいます。この右手の形（印相といひます）を「施無畏の印」（図2）といひます。わかりやすく言えば、「なにもこわがることはありませんよ、心配しないでね」とおっしゃっておられるのです。そして、たらしした左手は「与願の印」（図3）といひて、「話してごらん、願ひことは聞いてあげますよ」ということをサインで表わしておられるのです。



図2

しかも、実は、この施無畏と与願の印は、すべての如来さまにも通用する印ですから、「如来（仏）の通印」ともよばれています。

なお、お釈迦さまには、お生まれになった時の誕生仏から、お亡くなりになられた時の涅槃像まで、実にさまざまなお姿がありますが、ここでは省略させていただきます。

ところで、この施無畏と与願の大切なことは、これらの印が、自分だけが救われればそれでいいという狭い考え方ではなく、もつと幅広く、悩んでいる人々を救ってあげたいという願ひを表わしているということなんです。いいかえれば、自分の利益（自利）よりも他人の中心にする考え方（利他）なのです。そこには仏教の説く慈悲の心があります。

かつて、伝教大師・最澄上人が「己を忘れて他を利するは、慈悲の極み」であるとおっしゃられたのは、正にこのことだったわけです。

どうでしょうか、少しはお釈迦さまのお心に触れていただけでしょうか。皆さんもぜひ仏さまのお心をうけてからおまいりをするようにしていただきたいと思ひます。

※お釈迦さまは延暦寺・釈迦堂をはじめ、天台宗全国約二百カ寺で、ご本尊としてお祀りされています。